

これからの阿波おどり



東 京高円寺阿波おどりが100年後の未来へと続き、その文化が全世界に広まることを願っている皆さんから、激励メッセージをいただきました。「これからの高円寺阿波おどりは、“責任”と“誇り”をもって支えていかなければ…」そんな女性達の熱い思い、連長の決意を語っていただきました。



これからの阿波おどりに期待

夏の風物詩として関東一円から大勢の観客を集めている高円寺阿波おどりが、本年、50年という記念すべき節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

1957年（昭和32年）に第1回が開催されて以来、50年もの間、歴代の会長をはじめ、役員の皆様、関係各位の皆様方のご尽力には、心より敬意を表する次第です。

高円寺は、若者文化の発信スポットである「新しさ」と、人情味に溢れる「懐かしさ」とが同居する街。そして、阿波おどりこそは、高円寺の街を体現するビッグイベントです。

東京都では2016年に開催されるオリンピックの招致に取り組んでいます。私も初代観光立国担当大臣として、オリンピックを通じ日本の伝統・文化を世界にアピールしていきたいと思っております。そのときにはファンの一人として、高円寺阿波おどりの魅力を世界中の人々に紹介いたします。

東京の山手を代表するまつりとして高円寺阿波おどりが、今後益々ご発展されますことを心より祈念いたしまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。



衆議院議員 石原伸晃

高円寺阿波おどりは、長い歴史を誇る本場・徳島の阿波踊りから数々の教えをいただいております。そして、今や、夏の風物詩として、東京で最大規模を誇る行事のひとつに成長することができました。

これもひとえに、発足以来携わってこられた諸先輩の並々ならぬご努力と、杉並区をはじめとする関係諸官庁、高円寺地域の各団体の皆様の温かく、力強いご支援、ご協力の賜と、感謝の念でいっぱいでございます。

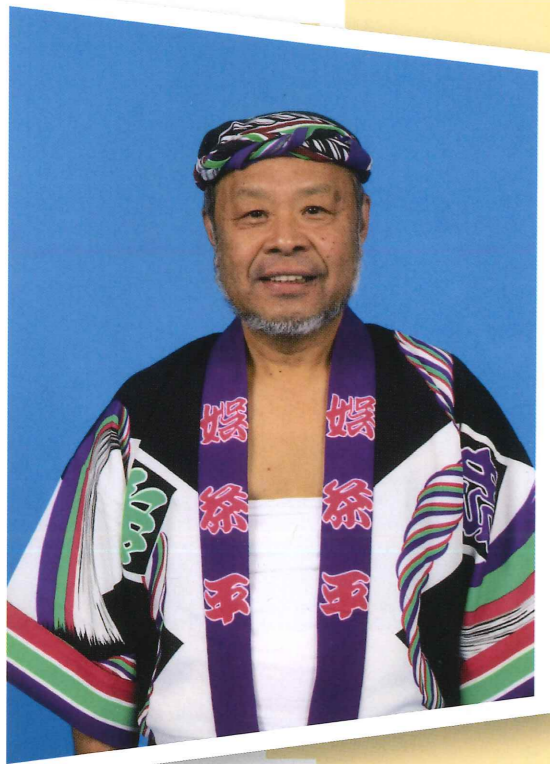
高円寺阿波おどりを地域文化として次世代に継承し、わが街・高円寺の価値を一層高めていくことこそが私たちの使命と、振興協会一同、決意を新たにしているところでございます。これからも高円寺阿波おどりは、多くの皆様にお力添えをいただきながら、安心・安全・環境に配慮した運営を旨として、新たなる50年にむけて、更なる発展に努めてまいります。



NPO 法人東京高円寺阿波おどり振興協会
理事長 武田周吾

徳島より激励メッセージ

一厳しくも温かく、高円寺を見つめる御大たち一



毎年、高円寺で踊らせていただいておりますが、お囃子に今ひとつ浮きを感じられません。笛や太鼓にはさほど違和感はないのですが、残念ながら三味線には惹き込まれるものはありません。「阿波よしこの」の名手・お鯉さんの三味線を聴くと、音のひとつひとつが炒られて転がる豆のようにコロコロと弾んで聴こえます。残念ながら、高円寺の三味線にはその弾みがありません。楽譜に書き表せない「溜め」「間」「弾み」をもっと研究していただき、さらに徳島のお囃子に近づいていただきたいと思います。

踊りに関しては、踊り方やフォーメーション等、徳島のコピーばかりで面白みを感じられません。半世紀を期に、「これが高円寺阿波おどりだ」という個性溢れる踊りを作られてはいかがでしょうか。新時代を迎えた高円寺阿波おどりが、一段と大きく飛躍されますことを、心から祈念いたします。

徳島県阿波踊り協会所属
娯茶平 連長 岡 秀昭

私ども阿呆連は、1975年（昭和50年）、新宿において、徳島県代表として阿波踊りを披露しました。その際、江戸っ子連より姉妹連の申し出があり、以来、現在にいたるまで江戸っ子連とは親密な関係を保ち続けております。我が阿呆連の「正調阿波武士の踊り」を踊り、正調阿呆連調の鳴り物を後々に伝えつつ「心を踊る」という深い意義をモットーに、高円寺において精進して欲しいものです。

阿波踊りは、その時代時代で変化する巨大な生き物です。しかし、常に心がけなくてはならないのが、楽しく踊り、見る人々に感動を与えながら、後余に伝えることです。

NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会におかれましても、設立当初の目的は本場徳島とは違っていても、阿波踊りを愛する気持ちは同じでございます。今後益々の発展・繁栄を祈念し、貴協会各位様のご健勝とご多幸を、お祈り申し上げます。

阿波おどり振興協会 副会長
阿呆連 連長 山田 隆



私は、高円寺の阿波おどりに初めて参加させていただいたとき、大きな驚きに胸を打たれました。

踊りが終了するやいなや、踊り子さん全員が道路会場の清掃をされ、あっという間に元の道路に…。高円寺全体で踊りを盛り上げ、そして幕を閉じる、素晴らしい光景でした。いくら踊りが素晴らしくても、マナーや地域協力の問題は、決して忘れてはならないことだと思います。

高円寺阿波おどりの「お囃子」も、以前はまるでオーケストラのようで驚かされましたが、今では見違えるほど上達なさったようです。踊りに関しては、徳島の物真似ではなく、高円寺独自のものを研究なされば、本場徳島の阿波踊りに負けない「高円寺阿波おどり」として、日本国内はもとより、世界中から認められるようになると思います。今後益々のご発展をお祈り申し上げます。

徳島県阿波踊り協会所属
みやび連 連長 武市 伶子

徳島で生まれた「阿波踊り」が、日本の中心部で都会的センスを加味しながら、大きく育ってきたことを、感慨深く思っております。

また、地元商店街との強い連帯と協調関係が築かれ、地域貢献や交流も活発に行われるなど、素晴らしい踊り環境が整備されています。長年にわたる役員の方々のご努力に深甚なる敬意を表す次第でございます。

徳島の阿波踊りも、戦後61年目にあたります。現在の阿波踊りは、空襲で灰燼に帰した街角で、一棹の三味線と締め太鼓で、地唄にのせて踊った素朴な踊りからは、隔世の感があります。もう一度原点に立ち返り、基本を大切にしながら、時代のニーズを的確に表現していけるように頑張っていきたいと思っております。

今後とも変わらぬご厚誼をお願いし、高円寺阿波おどりの更なる飛躍と50周年記念行事のご成功をお祈り申し上げます。



阿波おどり振興協会 副会長
うずき連 会長 原田 善亘

400年あまりの歴史をもつ阿波踊りが、東京高円寺で50周年を迎えられましたことは、ひとえに関係各位の方々のご努力の賜物だと敬意を表したいと思います。

高円寺阿波おどりの素晴らしさは、踊りさんの心意気と見物される方々の盛り上がりの良さ、これらが一体となって伝わってくるからだと思っております。阿波踊りといえば、東の高円寺、西の徳島といわれるよう、互いに切磋琢磨しながら頑張りましょう。

徳島の阿波踊り期間中は、毎年、多くの踊り子さんや見物人の方々が、全国から徳島にお越しくださいます。今年も、ぜひお越しいただき、徳島の阿波踊りを堪能していただけますよう、心からお待ちしております。

最後になりましたが、高円寺阿波おどりが今後益々発展されますことを祈念し、50周年記念のお喜びのご挨拶といたします。



阿波おどり保存会 事務局長
本家大名連 連長 清水 理



2006年4月8日
高円寺銀座商店会事務所3階にて

高円寺阿波おどりに長く携わってきた女性たちが集まり、自分自身、連、高円寺のことなどさまざまな角度から阿波おどりを語り合った3時間。連を超えた彼女たちの思いは、これからの高円寺をどのように変え、どのように育てていくのでしょうか。

ずっと踊り続けたい…

—阿波おどりを始めたころと変わったことってなんだろう？

真由美 私が阿波おどりを始めたころって、大半の女踊りのリーダーが、中高生、大学生くらいの年齢だったんじゃない？

みっちゃん 飛鳥連もそうだった。今、深刻な問題として子どもがいなくてしょ。私が赤ハツピだった黄金時代は50人ぐらいいたのに、今はとうとう10人を切っちゃった…。

敬子 みっちゃんたちは団塊ジュニアだから、人口も多いのよね。

みっちゃん 昔、飛鳥連は小学校4年生以上しか入れなかったんです。今、そんなことしてたら、ほかの連に入っちゃう。でも私たちが求める姿を考えると、2年生以上が限界。

かおる うちで連員の子もだけ認めてたんだけど、その友だちが入りたいといったとき、受け入れるかどうか？ すごく悩んだの。先のことを考えると「子どものうちから踊った方がいい」という話しになって。そうこうして1年も2年も思い悩んでいるうちに、未就学児だった子が成長して、小学生になった(笑)！

敬子 すごいこれからだね。希望だ！

たえ うちで連員の子もだけ。子どもに踊らせたかったら親も一緒に入り、連員2人ゲット！そういう考え方です。



天水連:男踊り部長
市東妙子さん(たえ)
阿波おどり歴:14年
目標とする踊り:腰を低く元気に踊る



飛鳥連:副連長
佐久間通子さん(みっちゃん)
阿波おどり歴:31年
目標とする踊り:
徳島・娯茶平・浜田次郎さん



志留波阿連:会計
藤巻敬子さん
阿波おどり歴:27年
目標とする踊り:
志留波阿連・前連長
藤巻敏彦さん



女性たちが語る高円寺阿波おどり



直美 子どももそうだけど、最近は若い人たちって夏以外はあまり踊らなくなったよね？

みっちゃん ほかのことに夢中になる時期は、それでいいと思いますよ。阿波おどりに夢中になるときはなって、それでバランスをとってあげればいいんじゃない

絵実 でも夏しか活動していないと、夏以外の時期にほかの地域の阿波踊り大会やお祭り、イベントへの出演依頼が来ても、人数が揃わなくて出演不可能になっちゃう。そういった出演料で連の運営費はまかなわれているんだから、当然、連の運営自体が苦しくなるよね。踊るためにはお金がかかるんだよ、人が動くのは大変なことだと、わかってほしいよね。

—引退って考えたことある？

かおる 私は3年ぐらい前から考えていたんだ。でも幼いころから阿波おどりをやっていた息子が、ここに来て急に阿波おどりに目覚めて、一生懸命やるようになった。それに引っ張られる形で辞められなくなっちゃった。ちょっとずつ減らしていたつもりが、どんどん引っ張られてね。

絵実 昔は結婚したら辞める感じだったでしょ。でも私が結婚したとき、連員が大勢家に来て、「どうか辞めさせないでくれ」って夫にいつてくれたの。

ちいちゃん 引退はしないけれど、お離子にも興味がある。阿波おどりに生かされればと思って津軽三味線を習い始めたし、鳴り物もうまくなりたいたいと思ってる。

絵実 鳴り物っておもしろいよね。別の自分が出てくる。

幸世 踊りを、違う目で見られるからね。

ちいちゃん でもやっぱり踊りも続けたい！



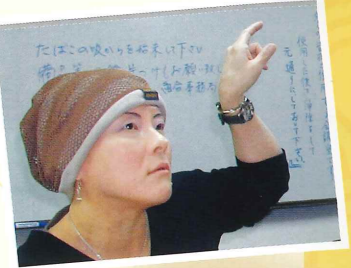
志留波阿連:副連長
井田真由美さん
阿波おどり歴:26年
目標とする踊り:
徳島・みやび連・武市伶子連長



天狗連:旧女子部長
村上幸世さん
阿波おどり歴:20年
目標とする踊り:
現役を離れているため特になし



江戸っ子連:副連長
杉谷ゆき絵さん
阿波おどり歴:30年
目標とする踊り:現在、笛も勉強中
徳島・阿呆連・川口朋子さん



花菱連:
浜野絵実さん
阿波おどり歴:32年
目標とする踊り:
しのぶ連・青木さん



えふあいえい連:指導部
渡辺かおるさん
阿波おどり歴:26年
目標とする踊り:
楽しく美しく踊ること



しのぶ連:会計
松崎直美さん
阿波おどり歴:35年
目標とする踊り:
女っぽくならない男踊り



江戸っ子連:事務局長
杉谷ちさとさん(ちいちゃん)
阿波おどり歴:28年
目標とする踊り:
徳島・阿呆連・久賀由美さん





練習しなきゃ!

—個人の練習はどうしてる?

たえ 毎日筋肉トレーニング! そうしないと無理でしょ?何もしなくても踊っていたころには戻らないから。

直美 去年より多く練習して、やっと去年並み。それに今は、勉強したいと思ってるの。焦りがあるのかな?

みっちゃん 私が焦りを感じたとき、阿波踊りの大先輩に「基本ができて、仕事やプライベートが充実して、家族を大切に思っていたら、それがその年の踊りの“味”となって加わる。そうして自分を成長させていったらいいんじゃないかな」といわれて楽になったんです。ちょうど副連長になったり、舞台、流し踊りを含めた飛鳥連全体の踊りの演出を任せられたりして、自分自身がとても大変なときだったから、その言葉で本当に救われました。連の子にもよくこの話をしています。

絵実 私は最初に提灯踊りを始めちゃったから、常にトップでいなきゃならなかったし、時間がないというのは単なる言い訳にしかならない。365日練習するしかなかった。自転車をこいでるときだって、提灯を振る練習はやった。手になじむことが大切だと思ってね。

直美 私トイレとエレベーターの中では必ず練習するよ。

絵実 いつでも練習! 町でうちわを配ってたら、必ずもらうよね。あおぐ道具としてではなく!(笑)

女性だからこそできること…

—女性だから思うことはない?

みっちゃん 時代の流れで変わっているのかもしれないけど、私たちってひとつひとつ壁にぶつかって、それを壊してきた感じがしません?

真由美 女性の意見を聞いてくれるようになったのは、ここ5~6年。私が副連長になって連長会議に出て、連協会所属連の合同連による外部出演に行っていたことは、女性の存在感があまりないこと。でも今は女性が強くなったんじゃない?



敬子 それも時代よ。いろんなことをてきぱきとこなしたり、以前のように結婚したら引退することもなく、ずっと続けることができる環境が確立されたわけだし。

ちいちゃん 女性の立場が高くなった分、男性が低くなった気がするけど…。

敬子 それもバランスで、極端だとうまくいかないでしょ。

—これからどうしたらいいと思う?

ゆき絵 これだけパワーのある女性がいることを考えると、高円寺をよりよくするために動かなくてはいけないのは私たちだと思う。自分の連も大切だけど、連の枠を越えた横のつながりが必要とを感じるよね。

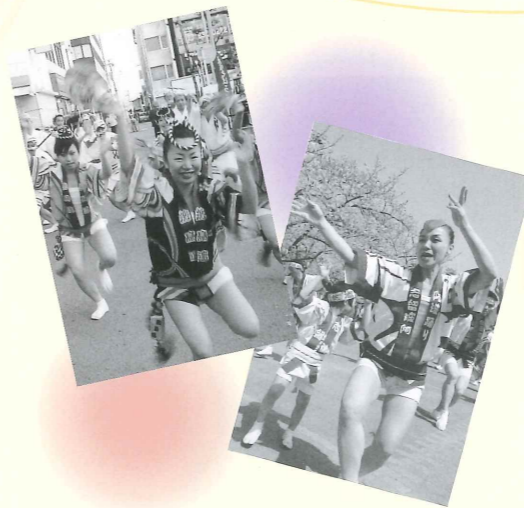
みっちゃん 高円寺全体の印象をよくしよう! という方向で頑張れたらいいですよ。

幸世 阿波おどりは、楽しいことなんだから、踊るときは踊らなきゃ。

みっちゃん そうそう。私、100周年も現役バリバリの予定!

ちいちゃん 高円寺に生まれ育った者として、高円寺阿波おどりに恩返しができるくらいですよ。

直美 連に戻ったら、今日聞いた知らない話を「伝える」という役割も大切よ。



まとめ:

3時間に及ぶ座談会は、高円寺阿波おどりの問題点や悩みを浮き出させつつも、笑いの絶えない楽しいものとなりました。実はスペースの都合で、載せることができなかった話もたくさんあります。

この企画がなければ実現することがなかった連の枠を越えた交流のなかで、同じ悩みや目標をもった仲間が語り合っ生まれた新たな関係は、今後をよき発展へと導いてくれることでしょう。そして私たちの情熱と惜しみない努力がこれからの高円寺阿波おどりを支え、力の源となっていくことは間違いありません。

今回座談会に参加した女性たちをはじめ、高円寺阿波おどりに関わるすべての女性のこれからの活躍に期待し、また見守っていただければと思います。



連長は語る!! 現在・過去・そして未来

高円寺には、阿波おどりの中核を成す26連が所属する「高円寺阿波おどり連協会」がある。阿波おどり発展の歴史を知る連長たちに、現在、過去、そして未来への展望を聞いた。

連長の仕事は次の連長を育てること!



浅賀信夫 連長(54)
菊水会菊水連：昭和39年発足

阿波おどり歴：43年
連長歴：12年
姉妹連・友好連：なし

踊りを始めたころのエピソードは?

ランニングと半ズボン。帯の代わりに荒縄で踊っていたよね。昭和42年に徳島から来てくれた人に「腰が高い!」と竹刀で指導された経験があるよ。厳しいなと思ったね。

菊水連の興りは?

昭和39年に現ルック商店街が踊り会場として参加したときに3つの連ができた。そのひとつが菊水連。

連長として目指すものは?

菊水連の踊りにはこれといった型が無い。連員が「こう踊りたい」といえば、「好きにやりなさい」という。そのアンバランスさこそが、菊水連の個性だと思うね。

連長としての展望は?

連訓は「王道を歩み、和をもって尊ぶ」、連志は「阿波おどりの楽しさを幅広く伝道する」。この連訓と連志を守っていける人に引き継ぎたいと思っている。連長の仕事は次の連長を育てることといえるかもね。50周年の今年こそ、連の「新たな伝説の始まり」にしたい。

苔作はとても民主的!

踊りを始めたころのエピソードは?

高円寺に住み始めたのは昭和43年。友人になった花菱連の連長(当時)の誘いを受けて始めたんだ。実は高円寺に来てすぐのころ、天狗連に入れて欲しいと訪ねたけど、「衣裳が無い」と断られたことがあったんだよ。

苔作連の興りは?

昭和40年代後半、所属の連でいざこざがあって、半分くらいの人が辞めて、自分も辞めることになった。でも阿波踊りが好きでね。辞めた連中と徳島へ行って、そこで見たのが苔作連だったんだ。これならやりたいと思って、徳島に4年通ってようやく高円寺で苔作連を作ること認めてもらえた。だから、連ができてからずっと連長なんだ。初めて高円寺で踊ったときは12人だったな。

阿波おどり歴：37年
連長歴：31年
姉妹連：徳島県・苔作連

布澤茂壽 連長(62)
苔作連：昭和51年発足



●●● 苔作連はどんな連?

やりたい人はどうぞ、でも好きでないと続かない。1日の中でどの程度苔作のために時間を割くことができるかが一番かな。連はとても民主的でね。連長・副連長以下、任期が2年で、それぞれ立候補して投票で決めてるんだ。ただ、連長に立候補する人は、今までずっと自分しかいなかったんだ。不思議だね。

連長として、苔作連の将来像は?

高円寺の苔作は異端児と見られているけど、そのままが良いと思う。発足当時は高円寺の他の連が音をマネするなんて思っていなかった。音という意味では苔作流の家元なのだから、今のままで良い。苔作という名前に愛着をもっているからね。

さらなる発展を模索する場が節目の50年。半世紀が経過したのだから、もう文化といってもいいと思うよ。

古いけれど、新しい連

踊りを始めたころのエピソードは?

菊水連と同時期に現ルック商店街に五店会というのがあって、そこがひょっとこ連の発祥なんだ。「近所の子どもは参加して」といわれてやり始めたね。今じゃ想像もつかないナイロンの貧相な白の衣裳だった。ペンキ屋に「ひょっとこ連」と書いてもらって着ていたなあ。

連長になったきっかけは?方針は?

前連長のころは練習もせず、3日間ただ踊って遊べば良いといわれていた。でも、自分たち若い者はちゃんと踊りたかったんだ。自分が連長になったとき、誇りに思える連にしたいと思った。そのためには、出演の機会を増やすこと、徳島と親しくなって目標をきちんともつことだと思った。連はできて長いけど、本格的に活動し始めたのは自分が連長になってからなので、まだ短いね。

うずき連と友好連になって。

暗中模索の末、茨城県の潮来で出会ったことがきっかけで、うずき連と友好関係をもつことができた。今は、踊りも鳴り物もうずき流でやっている。でも、当時はうずき連を模範とすることに反対する連員も、実は多かった。その中で判断するのはそのときのトップの務め。辞めた人もたくさんいたよ。

連長として将来に望むことは?

阿波おどりはどんどん変化している。だからずっとこのままでいいとは思っていないけど、当面はうずき連という目標があるので、このまま行こうと思っている。もし連長を譲るならば、志を分かっている人に引き継ぎたいね。

3代やっている人も出てきたけど、まだ50年は通過点。文化として根付いていくための方法を模索していきたい。

阿波おどり歴：42年
連長歴：17年
姉妹連：徳島県・うずき連

伊丹正信 連長(56)
ひょっとこ連：昭和39年発足



練習よりミーティングが多い。



岩浪則彦 連長(45)
天水連：昭和 60 年発足

阿波おどり歴：27 年
連長歴：20 年
姉妹連・友好連：なし

踊りを始めたころのエピソードは？

中学生のころ、苔作連の現連長・布沢さんに誘われて徳島に行ったのがきっかけで花菱連に入った。それが始めだね。

天水連の興りは？

当時の所属連で、自分を含めた若い人が一度に何人も辞めてしまっただけでね。苔作に移籍しようと思ったけどそれもできなかった。じゃあ、自分たちで作ってしまおうということで17人から発足したんだ。お金をかけないように衣裳も白地に黒の組み合わせにしてね。発足当時は、2ビートの音の方が味を出せて思っていた。今の音ではなかったね。

連長として方針は？

阿波おどりは屈屈じゃないし、われわれは型をもっているわけでないから自分たちの音や踊りを作れば良いと思う。でも男は短髪という掟があるね。だから、初めて練習に来た男性には、そう告げているよ。あとは、一人ひとりが何でもできるようにしたいと思っているね。

連長として、連の将来像は？

代表者はみんなの意見をまとめるのが役割と皆に伝えている。そのためには連員一人ひとりがきちんと意見や考え方をもつ必要がある。だから練習よりミーティングの方が多くらいだよ。次の連長は自分の子ども位の年齢層にしたいかな。高円寺の阿波おどりは、イベントではなく祭りであって欲しいと思っている。

伝統を引き継ぎたい。

踊りを始めたころのエピソードは？

第1回のときに、みんなの後について踊っていたな。当時商店街の青年部に入っていなかったから正式メンバーではなかったけどね。

天狗連の興りは？

現パル商店街にあった「きらく連」の中で、踊り好きな連中が集まって結成されたのが天狗連。「若獅子連」にしようとの意見もあったけど、当時徳島で有名だった天狗連が解散したこともあって天狗連にしたんだ。

平和連と姉妹連になったきっかけは？

当時の連長や熱心な人が何度か徳島に通って交流を図っていたんだ。そこで平和連の幹部の方と出会ったのがきっかけだね。

今後の天狗連は？

天狗連も昨年40周年を迎えたけど、その伝統を若い世代に何も伝達できていないのが現状。自分が連長になったときには、今までの伝統を次の世代を担う若い人たちに引き継ぎたいと思ったね。若い人たちにバトンタッチする体制をつくるために、自分のもつ経験とノウハウを教え込もうと思っている。

今の幹部は皆自分が育てた生え抜きの人たち。次の連長はこの中から出てくるだろう。自分が連長を退いたあと、一連員として楽しく踊らせて欲しいと願っているよ。阿波おどりに関わった人たちが「高円寺は故郷なんだ」と思える街、阿波おどりにしていきたいね。

阿波おどり歴：48 年
連長歴：5 年
姉妹連：徳島・平和連

斉藤義忠 連長(65)
天狗連：昭和 40 年発足



師匠に学び、高円寺で生かす



富澤武幸 連長(47)
飛鳥連：昭和 45 年発足

阿波おどり歴：40 年
連長歴：11 年
姉妹連：徳島・娯茶平

踊りを始めたころのエピソードは？

飛鳥連ができる前は、同じ商店街ののびゆく連で踊っていた。飛鳥連が発足したころは、天狗連はダントツの存在で、みんなのあこがれの的だった。飛鳥連でも「子どものときは飛鳥にいて、大人になったら天狗に行く」といううわさが流れていたね。

連長としての役割は？

今の自分は現場での連長業務はほとんどやっていない。本番でも衣裳を着ることはないし、練習も外部出演にもほとんど行かない。副連長以下の若手幹部に任せっぱなし。任せられる若手が育ってきたことをとてもうれしく思っている。自分の役割は方向性を定め、連内の空気を整えることだと思う。

姉妹連との付き合い。そして今後は？

飛鳥連は徳島・娯茶平の姉妹連。初代連長の代に交流が始まり、2代目を経て3代目の自分へと引き継がれてきた。この間、互いの存在に葛藤する時期もあった。だからこそ今はとても良い関係にあり、連長はもちろん、連員同士も仲が良い。

娯茶平からは、芸の深遠さ、阿波踊りを従来の粋の内と外でとらえ、踊りや演出に生かす考え方をいつも学ばせてもらっている。教えは厳しいが、厳しく指摘してもらえる関係に満足している。

徳島に姉妹連をもっている連は、その姉妹連を師匠連と思っているが、その師匠連の教えを自分たちのものにしていく過程がたまらなく面白い。それぞれにこだわりができる。ただ高円寺だから限界もある。「本場の力を目指し、自らの限界を知る」。この矛盾を受け入れられる人に次期連長をお願いしたい。阿波踊りは好きで始めたことだから、苦しくとも尻ぬぐいも自分たちでやっていけるようになりたいと思う。

家族的で和気あいあい

踊りを始めたころのエピソードは？

高校を卒業したころに、「あさがお連」(現見妙連)で始めたのが最初。その後、実家が所属する町会がしのぶ連を立ち上げ、その2年目に移籍したんだ。自分たちが移籍するにあたって20枚の半被を作ってもらったんだけど、柔道着の生地のみこし半纏だったので重いし暑いし大変だったよ。

連長になったきっかけは？

前連長は自分の兄。兄は忙しくなってきたのでなかなか参加できなくなったので、つなぎのつもりで連長になった。それが16年前の話。でも、ずっとそのままだからつなぎじゃないよね。

粕谷家は3兄弟皆が連長だけど。

兄は粋輦、弟は花道連だけど、三人そろって阿波おどりが好き。同じ連だったころは、それぞれ鳴り物と踊りに分かれていて、口論はしょっちゅうだったよ。兄弟げんかの元凶はいつも阿波おどり。家族からは「阿波おどりの話ばかりして!」といつもいわれていたね。

連長として、連の未来は？

しのぶ連は家族で参加している人が多い。その分和気あいあいと楽しくできていて、連絡も早い。一人で参加するより家族で参加すると人数も増えるし、今後も基本的には家族的であって欲しいね。

次の連長? やっぱり若い人が理想だな。新しい発想を取り入れるし、使う道具にしても切り替えがスピーディーだよ。でも、基本は忘れず、かけ離れないようにしたいね。

阿波おどり歴：35 年
連長歴：16 年
姉妹連・友好連：なし

粕谷俊春 連長(54)
しのぶ連：昭和 47 年発足

